

## 論文要旨

学位論文題目「教員の異文化体験－異文化適応・人間的成長・教員としての成長－」

氏名 鈴木京子

本論文では異文化コミュニケーションの分野でしばしば主張される「異文化に適応すれば人間的成長に結びつく」という言説に対して、海外派遣教員を調査対象として「どのようなプロセスを経て異文化接触が人間的成長や教員としての成長に貢献するのか」という問いを立て異文化接触による人間的成長と教員としての成長のプロセスを明らかにしようと試みた。研究対象には REX プログラムによって日本から海外の中等学校に派遣された経験を持つ 26 名の現職教員を選んだ。派遣国はアメリカ合衆国、中国、連合王国、豪州、ロシア、ニュージーランド、韓国であった。研究では被調査者本人が異文化での体験をどのように理解して解釈しているのかが重要になるために解釈的アプローチを採用し、修正版グラウンデッド・セオリーを用いて、海外派遣教員たちが日本との差異にどのような評価・感情を持ったか、その結果どのような成長に結びついたのかという点を中心にカテゴリー分析を行った。多くの先行研究は、異文化接触で個人は全体的な変化を遂げると考えるが、本研究は最新の研究同様に同一個人内でも変化したりしない部分があるという立場を取り、より多くの変化を遂げれば成長が大きいと考えた。

分析の結果、ゲストの異文化適応にはホストの文化規範や文化実践に対する〈肯定的な評価・感情〉に起因する [ゲストの変化] と、〈否定的な評価・感情〉に起因する [強要されたゲストの変化] という二種類があることがデータで確認された。ここから適応の定義には居心地の良さは含めるべきではないという一つの結論が出された。〈肯定的な評価・感情〉があるときにゲストの様々な適応を促進する共通した [適応促進要因] には、〈主体的な行動〉と〈人的な繋がり〉があった。また〈否定的な評価・感情〉を持って、差異を〈受け入れる心〉が形成されることがあり、〈主体的な行動〉、〈馴化〉、〈「学ぼう」とする気持ち〉、〈「これもあり」〉、〈割り切り〉という [形成促進要因] があることが分かった。さらに [ホストの変化] も見られ、[ホストの変化] を招くためにはゲストが主体的に働きかける必要があることが分かった。そこで〈主体的な行動〉は [ゲストの変化]、〈受け入れる心〉の形成、[ホストの変化] を招くために共通する重要な要素であることが明らかになった。〈肯定的な評価・感情〉に基づく [ゲストの変化] がある場合には [人間理解の深化]、〈バイカルチュラリズムの萌芽〉が見られ [新たな目標の設定] があって【人間的成長】に結びつくが、〈否定的な評価・感情〉を持って [強要されたゲストの変化] がある場合は、嫌な体験を〈反面教師〉とする場合を除いて【人間的成長】には貢献していないと判断された。またホストが変化する場合にはゲストの【人間的成長】には結びつかないと言える。

以上の知見から、異文化接触ではゲストがホストの文化規範や文化実践に対して〈肯定的な評価・

感情)を持つことがゲストの【人間的成長】に繋がる中心的な概念であるために、これがコア・カテゴリーであると判断し、《肯定的な評価・感情》と示すことにした。

さらにゲストが【人間的成長】を遂げることによって、〈教育技術上の変化〉、〈指導技術上の変化〉からなる[教職技術上の変化]や〈自己受容感の育成〉という[心理的な変化]が起こり、【教員としての成長】も促進されていた。

本論文は異文化接触ではゲストが《肯定的な評価・感情》に基づく[ゲストの変化]を経て【人間的成長】を遂げることで、[ゲストの変化]、[強要されたゲストの変化]、[ホストの変化]の区別をする必要があること、[ゲストの変化]と〈自己の振り返り〉から導かれる[人間理解の深化]、〈バイカルチュラリズムの萌芽〉、〈新たな目標の設定〉という流れからなる主に認知面での【人間的成長】のプロセス、そこから繋がる行動、情動に関わる【教員としての成長】という流れを明らかにした。

以上の点から本研究の意義には、〈否定的な評価・感情〉に基づく[強要されたゲストの変化]があることを指摘した上で、《肯定的な評価・感情》に基づいた[ゲストの変化]から【人間的成長】に至るという道筋があることを明らかにして、これまでの「異文化に適応すれば人間的成長に結びつく」という言説を精緻化することができたこと、〈自己の振り返り〉、〈バイカルチュラリズムの萌芽〉という概念を導入することで、自己とホストの「枠組み」に気がついていくことが異文化間学習で可能になること、〈馴化〉の概念の導入によってホストの序列による異なる学習態度の可能性を指摘したこと、「抵抗」、「受け入れ」、「適応」、「逆転」、「寛容」というメタレベルの説明ツールと心理的メカニズムを結びつけたこと、〈自己受容感の育成〉の重要性を指摘した点が挙げられる。